

編集後記

『思考と対話』創刊号をお届けします。本誌は、哲学プラクティスの発展に寄与するべく、思考や対話、またその教育に関わる学術的研究を、哲学・倫理学に限らず、教育学、心理学の研究も含めて、発表できる場の創出を目指して創刊されました。2018年8月26日に開催された日本哲学プラクティス学会第1回大会で刊行が決定して以来、12月15日の創刊号の締め切りまでに、投稿論文9本、研究報告3本、学会報告1本が投稿されました。どうもありがとうございました。この投稿状況は、本誌のような発表の場が必要とされていることを明白にしていると言えます。

投稿された論文や報告のうち、研究論文5本、研究報告1本、学会報告1本が、編集委員会の厳正な査読プロセスを経て今号に掲載されることになりました（研究論文2本は審査継続中）。創刊の狙い通り、話題も多岐に渡り、哲学プラクティスの現状を広く認識し、その未来を展望するために重要な貢献を果たすに違いない、貴重な論考が並んでいます。記念すべき創刊号が、今後の議論の礎になることを望みます。

論文以外にも、哲学プラクティスに関連する重要な書籍が続々と出版されています。そのいくつかについての書評も5本掲載しております。なお、今回は書評の投稿がありませんでしたので、査読のない依頼執筆としました。お忙しいなか、依頼に応じて書評を寄せてくださった皆様に感謝申し上げます。読者の皆様には、査読付きの書評への一般投稿もぜひご検討いただければ幸いです。

次号への投稿締切は2019年11月末を予定しています。多くの投稿をお待ちしております。

日本哲学プラクティス学会 事務局
池田喬・永井玲衣